

愛Pが行く!!!

知立市の魅力発見旅 No.2

あじさい

こんにちは！愛知大学広報サークル愛Pです。第2回目である今回は、名鉄三河線「三河八橋駅」から徒歩8分、八橋かきつばた園へ取材に行ってきました。ここでは、4月25日～5月19日に「史跡八橋かきつばたまつり」が開催されているということで、新メンバーを含む6人で訪ねてみました。

かきつばたとは？

市の花であるかきつばたは水辺に咲く花で、花しようぶなどと似ていますが、かきつばたは花弁に白色の線が入っているのが特徴です。最初の花が枯れると2番目、3番目と順番に花が咲き、10日～2週間ほどきれいな花を見ることが出来ます。

八橋のかきつばた

八橋のかきつばたは古くから伊勢物語に詠まれ、尾形光琳が描いた花としてとても有名です。

かきつばたには約20品種あり色々様々ですが、八橋かきつばた園では「八橋」という品種の紫色のかきつばたのみが育てられています。

八橋のかきつばたを支えているのは、八橋旧蹟保存会の皆さんを中心とした地域の皆さんです。今回は主に、八橋旧蹟保存会会長の平澤信幸さんにお話を伺いました。

このコーナーでは、知立市と愛知大学との連携・協力に関する協定に基づき、愛知大学の学生が取材し、発見したものを伝えるていきます。

立ち枯れ病

平成29年、30年は保存会の皆さんにとっても苦しい年だったそうです。それは立ち枯れ病というかきつばたが感染する病気が原因でした。立ち枯れ病はカビの一種が原因となる植物の病気です。この2年間は八橋かきつばた園に咲くほとんどのかきつばたが立ち枯れ病に感染し、枯死してしまいました。保存会の皆さんは、かきつばた園に来場される人たちに、思うようなかきつばたを見ていただくことができず、悔しい思いをしたそうです。

対策と復活

しかし、保存会の皆さんは病気に負けず、「またたくさんのかきつばたを咲かせよう」という力強い思いをもってかきつばたの再生に取り組みました。

かきつばたが育ちやすい環境にするため、池の土壌の入れ替えや水流をよくするための溝づくり、肥料の散布などの対策を講じました。また、シルバー人材センターの皆さんが種から育てた苗の補植も行いました。

皆さんのかきつばたを愛する気持ちから咲いたかきつばたはとてもきれいでした。



八橋旧蹟保存会 会長 平澤信幸さん

かきつばたまつり

の見どころ

史跡八橋かきつばたまつりは50年以上前から開催されている、歴史あるまつりです。お花はもちろんおすすのポイントですが、「八橋」という地名の由来になった昔話にかかわる羽田玄喜一児の墓や、まつり期間中に限定で開放される無量壽寺の本堂もぜひチェックしてみてください。



愛Pとは??

愛知大学の学生サークルです。主な活動として、オープンキャンパスで愛知大学生の生活を紹介する独自企画の運営や、来てくださった人にキャンパス内をご案内しています。活動を通じて、愛知大学の魅力を学生目線で発信している広報サークルです！

「愛Pが行く!!」コーナーは、偶数月の16日号に連載します。



かきつばたの おすすめのお撮り方



一面に広がるかきつばたを撮るときは、しゃがんでかきつばたと同じ高さで撮ると、紫の絨毯のように見えてとてもきれいに写ります。また、かきつばたにフォーカスを合わせて周りをぼかす写し方も、かきつばたを美しく撮ることができます。

ぜひ、自分のお気に入りのフォトスポットを見つけてください！

おすすめのお土産

史跡八橋かきつばたまつりでは、京都にある本家西尾八ッ橋の八ッ橋をお土産に買うことができます。おすすめは「かきつばたの香り」という、史跡八橋かきつばたまつり限定で販売されている、かきつばたをイメージして作られた生八ッ橋です。かきつばたのようなきれいな薄紫色で、甘すぎない白餡がすっきりとしていてとてもおいしく、温かいお茶のお供にぴったりです。おまつりにお越しの際は、ぜひ召し上がってみてください！

八橋史跡保存館

八橋かきつばた園に隣接している八橋史跡保存館には、数百点の文化財が保存されています。館内を観光ガイドボランティアの戸田さんに案内していただきました。館内には、尾形光琳の「燕子花図屏風」や「八橋時絵螺鈿硯箱」の複製などが展示されていて、とても貴重なものを見学させていただき、たくさんのお話を聞かせていただきました。特に印象に残っているのが、「燕子花」という字についての話です。「燕子花図屏風」で使われる「燕子花」という漢字は、かきつばたの花が開く様子が「燕」が飛び立つ姿に似ていることに由来するそうです。（※諸説あります。）

ほかにも勉強になるお話をたくさん聞くことができるので、八橋史跡保存館に行く際は、ぜひ観光ガイドボランティアさんに案内をしていただくのがおすすめです。

豆知識

現在の5千円札の裏側に描かれている花は、尾形光琳が八橋のかきつばたを描いた「燕子花図屏風」のかきつばたです。

お札に知立の花が描かれているなんて驚きですね！



編集後記

私たちは、史跡八橋かきつばたまつりに行くまで、知立市にかきつばたで有名な場所があることを知りませんでした。しかし、お話を伺う中で、八橋のかきつばたにはたくさんの物語があることを知り、昔から現代までたくさんの人の想いが込められていることがわかりました。取材させていただいた地域の皆さんはとても優しく、取材した私たちも温かい気持ちになりました。特に、八橋旧蹟保存会の平澤会長にはとてもお世話になりました。ありがとうございました。

次回の特集はまだ決まっていないのですが、また皆さんに楽しく読んでいただけるような素敵な記事が書けるよう、パワーアップした愛Pみんなで頑張ります。よろしくお祈りします！

